

【正論】平和・安全保障研究所会長 猪木正道 橋本新内閣に対する注文

1996-01-15・東京朝刊・オピニオン

◆“安保堅持”を本ものに

橋本内閣、特に橋本龍太郎総理に注文したいことが二つある。一つは、いうまでもなく日米相互協力・安全保障条約に魂を吹き込み、日米関係を確固不拔のものとする事だ。前任の村山富市首相も、組閣早々“安保反対”から“安保堅持”へと百八十度転換し、在任中しばしば念仏か呪文のように“安保堅持”を口走っていた。しかし、米国の指導者も、日本の国民も、さらに御本人さえも、“安保堅持”の約束が本ものであるとは思っていなかったのではなからうか？

“安保堅持”を唱えることは易しい。しかし本当に日米相互協力・安全保障条約を堅持しようとするれば、集団的自衛権の行使は不可欠である。「集団的自衛権は日本国にあるけれども、その行使は憲法解釈上出来ない」という法制局の法匪的な解釈にしがみついているかぎり、米国は日本を非常事態の下では頼りにはできない勝手な横着者と考えるだろう。

さらに村山前首相は、国連安全保障理事会の常任理事国になるための条件として、武力行使には参加しないことをくどくどと述べたてて、ガリ国連事務総長をあきれさせた。国際連合は本来、必要な場合、武力を行使してでも平和を守るための組織である。武力アレルギーが余り強くては、安全保障理事会の常任理事国として不適格なばかりでなく、国連の一員となる資格さえあるまい。武力で日本に侵入してくる敵があっても、武力アレルギーの首相の下では、自衛隊に出動が下令されるかどうかさえわからない。

橋本新首相は、日本が集団的自衛権を行使できることを明快に打ち出して、日米相互協力・安全保障条約を活性化させていただきたい。法制局がぐずぐずいうようならば、憲法問題を争点とする総選挙を断行して、日米関係を妨げるとげを思い切って抜くべきである。これで四月の橋本・クリントン会談の成功は間違いない。

外交問題で次に重要なのは、日中共同声明の精神を互いに確かめあって、日中両国の友好・善隣関係を不動のものにすることであろう。米国と日本とは、対中関係の歴史に大きな差が存するから、たとえば米国が台湾の総統や副総統に査証を出したとしても、日本は真似るべきではない。

◆神戸から住生活改善を

次に国内面に移ると、村山内閣の一年半がデフレ不況の閉塞状態であったことを念頭に、思い切った積極的財政政策が期待される。ただやみくもに赤字国債を出して、公共土木建築事業を推進せよというのではない。明治維新以来の軍国日本でも、敗戦後の平和日本でも、不思議なことに、国民の住生活はなおざりにされてきた。昨年の阪神・淡路島大震災のあとも、ほとんど放任されたままになっている。経済大国日本が、震災で住居を奪われた同胞に、ほとんど何もしていないのを見て、現地を訪れた外国人はあきれかえっている。

まず神戸を中心に十兆円の住宅建設を行い、毎年同額を住生活改造に投資し続けるならば、二〇一〇年くらいには、日本国民の住生活は、先進経済大国の名に恥じないものとなるに違いない。

防災の技術を総動員して、土地を持つ国民には一戸建を、土地を持たない方々には集団住宅を国家財政の長期的出動を背景として整備してゆく。土木・建築の技術は揃っており、労働力にも余裕がある。十五年か二十年間で、日本国民の住生活を根本的に改善するという夢を、橋本総理が示せば、それだけでも、人心は閉塞から開放へと一変し、国民を悲観主義者から、楽観主義者へと転換させるだろう。

◆「しつけ」で大方針必要

一九五三、四年にドイツのミュンヘンに滞在した時、私が受けた文化ショックの最大なるものは、人間の行動ではなくて、犬の違いであった。私は幼時から犬を飼っていたが、散歩に連れ出した時、よその犬と対面すると、たちまち吠え合い、咬み合いになり、困っていた。ミュンヘンの犬は電車の座席の下に静かに横たわっており、他の犬と争うことはない。レストランに入れば、おとなしく主人のテーブルの下にいて、時々御馳走をいただいている。劇場では、飼犬をあずかる制度があり、飼主が迎えに来るまで、おとなしく待っている。

間もなくこの謎は解けた。ヨーロッパの犬は幼時にきびしくしつけられていたのである。日本でもこのしつけ制は採り入れられ、改善の兆しは見えるのだが、人間の方のしつけは全くなっていない。家庭でも、

小、中学校でも、子供のしつけにはほとんど全く無関心らしい。郊外電車の中で、小学生から高校生までが、大声でわめき合っている光景は、文明国のものではない。

橋本新内閣は、人間、特に子供のしつけについて、大方針を打ち出してもらいたい。経済大国化とともに、来日する外国人は増える一方であり、海外へ出かけてゆく日本人もますます多くなっている。しつけのない日本人は、日本を世界から尊敬されない野蛮国にするおそれ大きい。

(いのき・まさみち)